

第4学年 学級活動指導案

1 個人研究のテーマ

これまでの話し合い活動では、活動のめあてや提案理由を基に、自分の考えに理由付けをして話し合い、その活動のほとんどを子どもに委ねて進める実践が主流であった。しかし、45分間の話し合い活動を子どもだけに任せていては、子どもが問題解決に向かって学級の実態や活動の意味に気づき、思考力や判断力を働かせて、その解決策を見付けることは難しい。また、集団決定の場面で、子ども一人一人の興味・関心や好き嫌いなどが大きく影響してしまい、「学級としてはどうすべきか」「活動を行うときに何が大切なのか」を考えずに進んでしまうことが多かった。

そこで、私は、限られた授業時間の中で、子どもに学級の実態や活動の意味を捉えさせ、自分の考えを再構築させて話し合わせることで思考力や判断力を育てていく。



よりよい生活づくりを目指し、学級の諸問題を解決するために協同的に議論し合う授業づくり

生活づくりとは、子どもが学級、学校生活を楽しくするために、友達とかかわり合いながら生活上の諸問題を解決していくことだと考える。諸問題を解決するためには、協同的に議論することが大切となる。協同的に議論するとは、他者の思いや願いなどを理解して集団として意見をまとめることである。そのためには、意図的、段階的な指導・支援の下、子ども同士が異なる意見について説得したり、互いの意見を生かしたり、折り合いを付けたりして集団としての意見をまとめることができなければならない。そして、子どもがそこでの学びを生かして、その後の自主的、自治的な活動へとつなげていくことが重要となる。

2 活動名 「クラスイベントを成功させよう」

3 活動の目標

- ◎ イベントに向かう過程で、見通しをもち、学級の諸問題を明確にしながらか、その解決策を考え、よりよい活動とするために話し合う。
- 友達関係を広げ、一人一人のよさを認め、互いのかかわりを強める。
- 自分の考え、思いや迷いを素直に表現したり、異なる考え方を受け入れたりする。

4 研究主題とのかかわり

(1) 児童の実態

① 学級活動について

子どもは、4月に掲示した一人一人の学級への願いを実現させるために“会社”(希望制、人数・活動期間が自由な係活動)に取り組み、友達と相談しながら活動を進めている。また、学校行事などには、実行委員会を編成し、その子どもを中心に学級全体でめあてや取り組み方を話し合いながら活動してきた。

今までは、会社が中心となって計画を立て、フラワー会社の“花のイラスト大会”、イベント会社の“空き缶つみ大会”などが、休み時間に自由参加制のミニイベントとして行われてきた。しかし、そこでは、学級全員で話し合い、友達の願いや思いを共有することはなく、会社の企画をすぐに実施し、活動後の振り返りも学級全体で行われることがなかった。

本活動にかかわっては、昨年度、教育実習生との思い出づくりとして、お別れ会の中でドッ

ジボールを行っている。また、児童会活動の児童会祭りで、全校のみんなを楽しませようとゲームセンターを開いて、全員で分担をして仕事を進めていた。それらの活動では、学級で話し合い、活動のめあてや内容を決めていたものの、実際に活動が始まると、ドッジボールでは勝敗にこだわりすぎてめあてを忘れてしまったり、児童会まつりでは分担した仕事を自分勝手に進めたりする様子が見られた。活動後の子どもの振り返りでは、そういったことへの反省がいくつか出されたものの、その後の生活やイベントのなかで改善していこうとすることはなかった。

② 話し合い活動について

4月には担任や学級代表が司会者となり、学級のルールや仕事分担、学級目標などを話し合ってきた。5月からは、“会社のルール”“あいさつ運動”について、輪番で運営係（司会・副司会・書記など）を編成して話し合ってきた。また、“席かえのやり方”については、学級代表が司会者となり10分間の話し合い（とっさの話し合い）を行っている。その中で、子どもは、話し合いの進め方について理解するとともに、「今のクラスにとってよりよい内容や方法は何か」を、今までの経験や学級の実態とかかわらせて考えられるようになってきた。しかし、イベントの内容を決める時には、自分がやりたいことや好きなことに執着してしまう子どもが多い。

今までの話し合い活動では、自信をもって発言できない子ども、友達のと考えとかかわらせて発言できない子どもがいた。そこで、予め誰がどんな考えなのかが分かるように意見一覧表を活用したり、話し合いの途中に個々で意見交換できるフリータイムを導入をしたりして、子ども同士がかかわり合える場を設定してきた。

また、意見交換や意見の折り合いをつけるための時間を十分に確保し、学級や活動の問題点をじっくりと話し合わせるため、通常は話し合い活動の前段で行われている『始めの言葉』『運営係のあいさつ』『議題・提案理由の確認』は、話し合いの活動の前までに終わらせている。

(2) 本活動で目指す子どもの姿

【学級活動】 学級や活動の諸問題に直面したときに、友達とかかわり合いながら思考力や判断力を働かせ、解決策を考えて実践する姿。

【話し合い活動】 学級の諸問題を解決するために、学級の実態と活動の意味を捉えて、自分の考えを再構築し、クラスイベントを行ううえで大切なことに気付く姿。

(3) 学びを鍛えるために

- ・話し合い活動の授業を中心に、学級の実態や活動の意味を捉えて、「今の学級にとって大切なことは何か」「その活動が学級にとってどんな意味をもつのか」を考えさせ、学級の諸問題の解決に向けて取り組ませる。（“6 本時の計画 (3) 指導の構想 ②学びをきたえるために”を参照）
- ・「問題発見→目的の共有→議題の選定→話し合いの準備→話し合い→実践→振り返り」といった過程で学級のめあて、本活動のめあて、それらの活動を通して学級で大切にしなければならないことを常に意識させながら取り組ませる。（“5 活動計画・本時までの活動の実際”を参照）

5 活動計画・本時までの活動の実際(全4時間 本時2/4)

	活動の流れ	主な活動内容 (本時までの実際)
1	問題発見	1 一人一人が自分の願いや思いをもつ ・個別に活動や学級のめあてを考えてクラスイベントの企画書を作った。
	目的の共有	2 学級のめあてを明確にして、互いの考えを基に活動内容を決める ・学級の合言葉『ピース』の意味を考えた。クラスイベントで『ピースになる』とは、「みんなが楽しめる」「男女関係なくできる」「協力する」とした。

	議題の選定	3 一人一人の考えが出し合えるような議題を選ぶ ・七つの活動のなかから学級の実態、時間などの条件を考えて、活動を絞り込み、ドッジボールとゲームセンターに決めた。そして、話し合いの柱を「クラスイベントでどちらを行うか？」とした。
朝 会 等	話し合いの準備	4 一人一人が話し合いに見通しをもつ” ・絞り込んだ活動の細案を共通理解して、話し合いに向けての準備をした。 ※ドッジボール大会…いろいろなチームをつくって対戦する。等 ゲームセンター祭り…くじ引きで6チームをつくって店を開く。等 ・意見カードを書き、その意見の一覧表を見ながら自分の考えをまとめた。
1 本 時	話し合い (問題解決)	5 互いの考えを交流させて学級や活動の問題点を解決する ・活動を進める上での問題点を解決するための話し合いを行う。
1	実践	6 友達と協力をして準備を進める ・準備中などに問題点や共通理解が必要な事柄が表出してきた場合には、すぐに『とっさの話し合い』を行って解決する。
1	実践	7 一人一人が責任をもってイベントを実施する ・実行委員会を中心に、一人一人が自分の仕事に取り組む。
総 会	振り返り	8 活動全体を振り返り、次の活動への意欲をもつ ・アンケートや作文を基に、本活動の成果を明らかにする。 ・次に取り組みたい活動を考え、意欲をもつ。

6 本時の計画

(1) 議題名 クラスイベントの内容を決めよう

〈提案理由〉 1学期の終わりにみんなで考えてみんなで取り組むクラスイベント行う。

今までは会社に任せてクラスイベントを行うことが多かった。そこで、学級が“ピース”になることを目指して、みんなで行うクラスイベントの内容を決める。

〈話し合いの柱〉 クラスイベントでドッジボールとゲームセンターのどちらを行うか？

(2) ねらい

学級の実態や問題点を明らかにした上で、その問題点を解決するといった視点で活動することの意味を捉え、活動内容が「今の学級にとってどんな意味をもつのか」を考え、どちらの内容に取り組むべきかを決めることができる。

(3) 指導の構想

① 本時で目指す子どもの姿

◎ 学級の諸問題を解決するために、学級の実態と活動の意味を捉え、自分の考えを再構築し、クラスイベントで大切なことに気付く姿。

- ・資料などを基に、学級の実態を理解し、二つの内容の協力の仕方の違いを捉えている。
- ・二つの内容での協力の仕方を基に、学級の諸問題を解決するためには、どちらの内容がよいのかを考えて、書いたり発言したりしている。

② 学びを鍛えるために

ア 学級の実態を想起させる資料の提示

子どもは、クラスイベントで「どちらが活動のめあてを達成できるのか」を中心に考えている。しかし、自分のやりたいことを優先させて意見を主張している子どもも多い。

そこで、子どもによる進行を一度止めて、それまでの子どもの発言から協力に関することを押さえ、昨年度に取り組んだドッジボールと児童会祭り（ゲームセンター）の様子を提示して、どちらの内容も協力できる活動ではあるが、協力の仕方が違うことを捉えさせる。

- ・ドッジボール……いろいろなチームをつくるのでたくさんの人と協力できる。
パスをしたり声をかけ合ったりすれば協力できる。勝つために協力する。
- ・ゲームセンター……くじで決まったチームなので誰と組んでも協力しなければならない。
準備からチームで協力できる。店員と客として遊びながら協力できる。

イ 学級の実態と活動の意味を捉えさせる話形の活用

今までの活動の様子や実態を基に、学級の諸問題を解決するためにはどちらの内容がいいのかを、一人一人にもう一度考えさせ、クラスイベントで大切にすることを理解させる。

そのために、二つの内容での協力の意味を確かめ、「今の学級にとっては、どちらの内容がいいのか」と問い、どちらが学級の諸問題を解決できるのかを考えさせる。その後、「今の学級は～なので、……」という話形を用いて発表させ、学級の実態や諸問題を解決するために望ましいと思う内容を話し合わせながら、イベントを行うときに大切なことを理解させる。

この場面では、子どもに思考力・判断力を高めるため、それまでの話合いを振り返らせ、もう一度どちらの内容がいいのかを決めさせることになる。

ウ 個別の自己決定を迫るフリータイムの導入

集団決定の前に席を離れて自由に意見交換ができるフリータイムで、子どもに友達と個別に議論や相談をさせ、今の学級にとってはどちらのやり方がいいのかを自己決定させる。

ここでは、意見交換の内容を板書して全体に示し、「何について話し合うのか」を明確にしてから取り組ませる。また、フリータイムの前に、どちらにするかで迷っている子どもを数名発表させ、意見交換のポイントを絞る。

フリータイム後には、誰と話をし、そこで何をどのように考えたのかを報告し合うようにする。その後、一人一人が自分の考えをさらに深めていけるように意見交換をしてから集団決定の場面へと進める。

(4) 展開

活動の流れ	○教師の働き掛け・予想される児童の反応	・指導の意図、手だて □評価
1 司会のあいさつ 2 先生の話 3 話合い (自分と友達の考えを確かめる)	司会：これから第10回ダブルハッピーマイルを始めます。 ○ 活動のめあてを確認します。… 司会：二つの内容について、意見を発表してください。 ・ドッジはいろんな人と協力できる。 ・ゲームは準備から協力できる。	・意見一覧表を準備し、自分の考えを確かめさせる。 ・活動のめあてを提示する。 ・一覧表や話合いカードを基に自分の考えを発表させる。 ・写真や反省を示し、今までの活動の様子を振り返らせる。
	○ 二つの内容での『協力』は、どこが違いますか？ 協力できるときと、協力できないときに分けて考えましょう。	
(二つの内容での異なる意味に気付く)	・ドッジは、勝つために協力するけど、勝敗にこだわり過ぎると協力できない。 ・ゲームは、話し合いながら深く協力できるけど、同じ人とししか協力できない。	・協力できるときと協力できない時の具体的な姿を明らかにして、二つの内容の異なる意味に気付かせる。

<p>学級で大切にすることをとらえて自分の考えを述べる</p> <p>(23分)</p>	<p>○ 今の学級にとっては、どちらの内容がよいですか？</p> <p>司会：今の学級のことを考え、どちらの内容がよいかを、もう一度考えてください。(3分間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを見直して、もう一度よく考える。(またはカードに書く。) <p>司会：「今の学級にとって」を考えて、どちらの内容がよいかを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今は～なので、～の方がいい。 ・今の学級では、～の協力が大切です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級で大切にすることをとらえさせ、自分の考えを再構築させる。書くことも認めて自分の考えを整理させる。 ・今までの自分の立場にとらわれず、話形を示して発表させる。 □学級の諸問題を解決するために、活動で大切にすることをとらえ、「今の学級にとって」について、自分の考えを書いたり発言したりしている。(観察・カード) ・フリータイムの意見交換のポイントをまとめ、誰に何を話に行くのかを板書する。 ・フリータイムには机間支援をして、納得のいく話合いとなるように支援する。 ・司会とその後の話合いの進め方を相談する。 ・自分の考えが変わった子どもや迷いがなくなった子どもに発表させて、考えの深まりを全体に知らせる。 ・終了時刻の10分前には集団決定に入る。 ・全員が納得しなければ多数決を採る。
<p>フリータイムで、友達と個別に議論したり相談したりして、友達の考えを納得・説得するために、席を離れて自由に意見交換をする。</p> <p>全員納得か多数決でやり方を決める</p> <p>(15分)</p>	<p>司会：フリータイムにします。</p> <p>○ 今の自分の立場を確認します。迷っていることを発表してください。…では、フリータイムにしましょう。</p> <p>司会：多数決を前に、最後の意見交換をします。フリータイムで話し合われたことなどを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、～という意見を聞いて考えが変わりました。だから～に賛成です。 <p>司会…全員が納得したので～にします。</p> <p>…全員が納得していないので多数決にします。</p> <p>司会…ラスイベントの内容は～に決まりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フリータイムの意見交換のポイントをまとめ、誰に何を話に行くのかを板書する。 ・フリータイムには机間支援をして、納得のいく話合いとなるように支援する。 ・司会とその後の話合いの進め方を相談する。 ・自分の考えが変わった子どもや迷いがなくなった子どもに発表させて、考えの深まりを全体に知らせる。 ・終了時刻の10分前には集団決定に入る。 ・全員が納得しなければ多数決を採る。
<p>4 話合いの振り返り</p> <p>学んだことを書く</p> <p>(5分)</p> <p>5 先生の話</p> <p>(2分)</p>	<p>司会：今日の話合いを振り返ってカードを書きましょう。(5分間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントのめあてを達成させるためには、～が大切だとわかった。だから、～をがんばりたい。 <p>○ 話合いのポイントを子どもの振り返りカードを基に話す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時でどんなことを学んだのかを書くよう、個別に助言をして一人一人のがんばりを称賛する。 ・カードの振り返りの中から教師がいくつか紹介をして、学びを全体で分かち合う。

(5) 授業の評価

本時では、行動観察と子どもが話し合いの途中と振り返りで書く話合いカードの記述から様子を見取り、評価を行う。(個別の評価は、今までのカードと比較して判断する。)

- ・資料などを基に、学級の実態を理解し、二つの内容の協力の仕方の違いを捉えていたか。
- ・二つの内容での協力の仕方を基に、学級の諸問題を解決するためには、どちらの内容がいいのかを考えて、書いたり発言したりしていたか。